



施設紹介〈第2回〉

医療法人社団篤友会 関西リハビリテーション病院

〒560-0054 豊中市桜の町3丁目11番1号
電話 06-6857-7756 FAX 06-6857-7757
URL <http://www.kansai-reha.jp>

関西リハビリテーション病院は、平成17年7月の開設で、まだ日も浅い病院だが、経営母体の医療法人篤友会は、同じ大阪・豊中の地に半世紀以上の歴史を持つ。地域医療に永年携わる過程で、高齢者医療充実の必要性を求めていた法人が、医学的リハビリテーションを確立する拠点施設の設立を望んでいた兵庫医科大学リハビリテーション医学教室と出会い、お互いの理念の具現化を目指して設立された。

所在地は、大阪モノレール柴原駅から少路駅間の中央環状線沿いに位置し、豊能医療圏に属する。大阪大学医学部附属病院、国立循環器病センター、国立病院機構刀根山病院、豊中・吹田・池田・箕面の各市立病院等々の急性期病院からいずれも車で30分圏内にある。全国有数の充実した急性期医療体制が提供されている地域であるが、救命後に遺した障害に対する医学的治療体制を更に充実向上させるべく、回復期リハビリテーション単科病院としての役割を当院は担っている。



病院建物は地上5階建5910㎡の床面積で、三層吹き抜けの理学療法室や、これを上方より臨むデイルーム、1床あたり8㎡以上の病床、ピオトープを中心に回廊式の屋上庭園などが建築的特徴であるが、これらは全て「建物全体がリハビリテーション提供の場」とする理念の下に設計されたものである。標榜科はリハビリテーション科、歯科で、各48床の3病棟が全て回復期リハビリテーション病棟基準である。新基準では、脳血管等・運動器・呼吸器リハビリテーションのいずれも（I）を取得している。

10名のリハビリテーション科医師（常勤）体制は全国屈指である。リハビリ医師主導の医学的リハビリテーション提供のため、初期評価から予測、リハビリ処方、装具処方、家屋調査等々、チーム医療の扇の要としてのマネジメントを行っている。内科医師2名は豊富な総合診療科経験をもとに全人的医療に従事し、感染対策・PEG・NST管理の中心も担っている。歯科医師は、疾病急性期間やADL障害のため放置されていた歯

科治療はもとより、口腔ケア・嚥下障害への取り組みを行っている。リハビリ部では、理学療法士18名、作業療法士17名、言語療法士8名、MSW4名が従事しているが、更なる充実を目指して人員募集中である。療法室だけの訓練でなく、また病棟でのADL訓練だけでなく、両者の適切なバランスが必要と考えており、看護師業務もリハビリ看護としてのエキスパートナースングに取り組んでいる。ADL評価はFIMを用いているが、セラピストによる「できるFIM」と、看護師による「しているFIM」の両面からの評価を持つようにしている。これらの職種が、入院当日に行う「入院カンファランス」から始まり、「ADLカンファランス」、「嚥下カンファランス」そして「総合カンファランス」から「退院カンファランス」まで、チーム医療を貫いている。リハビリテーション科学総合研究所の併設も特徴の一つである。研究所は、脳科学やリハビリテーション工学の研究を行う一方で、臨床の場に必要の機器開発をフィードバックしながら進めようとするもので、専任の常勤研究員もチーム医療の一員として活躍している。

リハビリ訓練は365日提供体制をとっている。日曜祭日・年末年始で休むことなく、毎日継続したリハビリ訓練を提供することで、早い回復と自宅復帰が叶う一因になると考えている。

直近3ヶ月の統計データから一部を提示する。入院申し込みから入院までの期間は平均10.1日、入院者の平均年齢は69.8歳で、平均入院期間は51.3日と早い。原疾患構成は、74%が脳血管障害・脳外傷、19%が骨関節疾患、脊損、神経筋疾患、脊椎疾患は各2%程度である。在宅復帰率は回復期適応・回復期適応外ともに64%を達成しているが、更に在宅への誘導を促している。

この4月より、一律期限による打ち切りや疾患別リハビリ基準など、患者さまご自身はもとより、臨床現場に従事する人間にとってもとても納得いかない制度が導入されたが、制度に翻弄されることなく、正しい医学的リハビリテーションを提供できる施設を目指していく所存である。（リハビリテーション部長 高橋紀代）

